

証券コード：7575

第37期  
中間報告書

平成28年4月1日 ▶ 平成28年9月30日

...for patient comfort.

# 主要連結財務データ

## Financial Highlights

### 当上期決算のポイント

- ・ 自社グループ製品の売上が引き続き伸長
- ・ 前期下期に導入した新商品が寄与し、仕入商品も好調に推移
- ・ 売上高の大幅な増加に伴う、販管費比率の低下により利益水準が向上

#### 売上高

(単位: 百万円)



#### 営業利益

(単位: 百万円)



■ 第2四半期累計 ■ 通期

#### 経常利益

(単位: 百万円)



#### 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位: 百万円)



#### 1株当たり四半期(当期)純利益

(単位: 円)



#### 自己資本比率

(単位: %)



当社は平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。また、平成28年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。33期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期(当期)純利益」を算定しております。

### ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当上期におきましては、自社グループ製品に加え、仕入商品においてもリズムデバイス、外科関連、インターベンションの各品目における新商品が業績に寄与いたしました。

当社における商社とメーカーという2つの面がともにうまく機能し、バランスよく成長していることから、収益性も向上しております。当社といたしましては、現状に満足することなく、中長期的な視野に立ち、さらなる成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



### 上期の業績はいかがでしたか？

**A** 当上期におきましては、本年4月に医療機器の公定価格である保険償還価格の引き下げが行われたものの、当社のオンリーワン製品等における価格引き下げ幅が小さかったこと等から、従来の価格改定に比べ、業績への影響は限定的でありました。こうしたなか、オンリーワン製品をはじめとする自社グループ製品が引き続き好調に推移していることに加え、仕入商品においても、全身のMRI(磁気共鳴画像)撮像が可能な心臓ペースメーカーや、腹部用ステントグラフトなどの新商品が寄与し

たことから、売上高は対前年同期で28.0%の増加となりました。

利益面におきましては、自社グループ製品において、収益性の高い製品の販売が伸長していることに加え、仕入商品においても新商品への切り替えが進んだことで収益性が改善し、売上総利益率は前年同期に比べ1.9ポイント改善いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、自社製品の開発関連費用のほか、業容拡大に伴う物流やシステム関連の業務委託費用等が前年同期に比べ増加したものの、薬事関連費用等の一部の経費については予算執行が遅れていることもあり、営業利益は前年同期比159.9%増と大幅な増益となりました。

## Q 近年の急速な利益水準向上の要因は何でしょうか？

A ここ数年の利益改善の一番大きな要因としては、やはり、自社グループ製品の売上高の伸長が挙げられます。仕入商品に比べて収益性が高い自社グループ製品の売上高が全体の5割を超えるまでに成長したことにより、売上高の増加に加えて売上総利益率が改善しております。

また、仕入商品においても、新商品の導入等により売上高は順調に増加しております。これらの新商品も、当社が既に構築している全国規模の販売網を生かした営業活動が可能であることから、売上高の増加率に比べて、販売費及び一般管理費の伸び率が低く抑えられております。

このように売上総利益率の改善及び売上高販管費率の低下によって、大幅に営業利益率が改善していることが、近年の当社における利益水準向上に繋がっております。

## Q 上期の販売状況について教えてください。

A リズムデバイスにおきましては、本年3月に導入した全身のMRI撮像が可能な新商品「KORA250(コーラ250)」が寄与し、前期から引き続き心臓ペースメーカの売上シェアが回復傾向にあります。

EP/アブレーションにおきましては、心腔内除細動カテーテル「BeeAT(ビート)」や高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」といったオンリーワン商品のほか、昨年4月に導入した食道温モニタリングカテーテル



「Esophastar(エソファスター)」等の心房細動治療の関連商品が引き続き伸長いたしました。

外科関連におきましては、大動脈瘤をカテーテルによって低侵襲に治療するステントグラフトにおきまして、従来から取扱う胸部用の商品に加えて、本年1月に新たに導入した腹部用の商品である「AFXステントグラフトシステム」が順調に販売数量を伸ばしました。

インターベンションにおきましては、本年2月に導入した心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla FlexII(フィギュラ・フレックスII)」が、医療現場から高い評価を得て短期間で浸透いたしました。

## Q 心房細動のアブレーション治療の増加について教えてください。

**A** 国内における心房細動の患者数は、高齢化等を背景として増加傾向にあり、正確な統計値はないものの、潜在的には100万人を超えるとも言われています。その全てがアブレーション治療の対象であるとは言えませんが、アブレーション治療の症例数は2015年時点で年間4万例程度と見込まれますので、今後も症例数は、増加することが予想されます。

また、心房細動のアブレーション治療は、高い技術が求められる難しい治療ではありますが、手術をより安全かつ確実に行うことをサポートする様々な医療機器の導入が、治療施設数の増加や手術時間の短縮に繋がっていること、さらには、アブレーション治療の認知度が高まっていること等が、症例数増加の背景にあると考えております。

当社においても、これまで心腔内除細動カテーテルや高周波心房中隔穿刺針といったオンリーワン製品や食道温モニタリングカテーテル等、アブレーション治療の安全

性や効率性の向上に寄与する製品を医療現場に提供してまいりました。現在は、自社製品であり、アブレーションカテーテルを正しく治療部位へと導くために用いるスティラブルシース[Guidee(ガイディー)]の来年1月の本格導入に向けた準備を進めております。今後も心房細動治療における関連商品を導入することにより、医療現場のニーズに幅広く対応できるよう努めてまいります。

## Q 中長期の業績への寄与が見込まれる新商品について教えてください。

**A** 今後、期待をしている新商品としては、EP/アブレーションの商品であり、2018年3月期下期の上市を目指し導入準備を進めている内視鏡アブレーションシステム[Heart Light(ハートライト)]が挙げられます。これは、バルーンカテーテル内部からレーザーを照射することで心房細動のアブレーション治療を行う医療機器であり、現在主流である高周波によるアブレーション治療に比べ、短時間かつ安定した焼灼が可能であることや、バルーン内部に挿入された内視鏡の画像を確認しながら選択的に焼灼できるという特長を有しております。

また、外科関連では、2020年3月期上期の上市を目指している、次世代の腹部用ステントグラフトである[NELLIX(ネリックス)]が挙げられます。同商品は、大動脈瘤の内部をポリマーで塞ぐことにより、従来のステントグラフトにおける問題点であった血液の漏れを抑制することができるという優位性を持っております。

当社では、自社製品の開発や海外における新商品の探索を常に行っており、今後も付加価値の高い医療機器の継続的な導入に努め、日本の医療現場に貢献するとともに、企業としての中長期的な成長を図ってまいります。

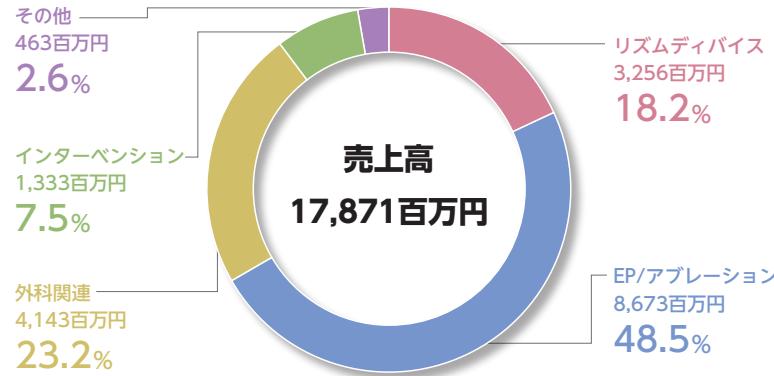


スティラブルシース  
[Guidee]

# 品目別売上高

## Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、人工血管、バルーンカテーテルおよびガイドワイヤー等を販売しております。



### リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比  
**18.2%**

#### 主要取扱品目

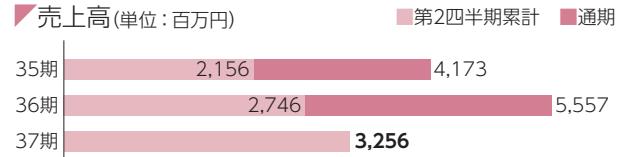
- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカにおきましては、本年3月より販売を開始した、全身のMRI(磁気共鳴画像)撮像が可能な心臓ペースメーカ「KORA250」が伸びました。また、ICD(植込み型除細動器)におきましては、昨年11月に販売を開始した、小型で長寿命な新商品「PLATINIUM」の販売数量が増加いたしました。

以上により、リズムデバイスの売上高は、32億5千6百万円(前年同期比18.6%増)となりました。



### EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比  
**48.5%**

#### 主要取扱品目

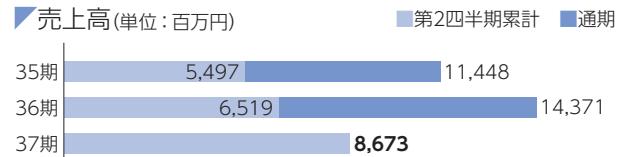
- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル
- 食道温モニタリングカテーテル
- 高周波心房内隔穿刺針



心腔内除細動カテーテル

EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として、オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT」や高周波心房内隔穿刺針「RFニードル」が引き続き好調に推移したほか、昨年4月より販売を開始した食道温モニタリングカテーテル「Esophastar」が伸びました。

以上により、EP/アブレーションの売上高は、86億7千3百万円(前年同期比33.0%増)となりました。



### 外科関連

血管や心臓の弁を置き換え  
治療する医療機器を扱う

売上高構成比  
**23.2%**

#### 主要取扱品目

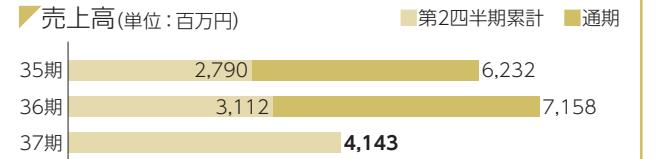
- 人工血管
- オープンステントグラフト
- ステントグラフト
- 人工心臓弁
- 人工弁輪



オープンステントグラフト

人工血管関連におきましては、自社製品でオンリーワン製品でもある「J-Graftオープンステントグラフト」の販売数量が増加いたしました。また、ステントグラフトにおきましては、従来からの胸部領域に加えて、本年1月に新たに参入した腹部領域の商品である「AFXステントグラフトシステム」の販売数量が順調に増加いたしました。

以上により、外科関連の売上高は、41億4千3百万円(前年同期比33.1%増)となりました。



### インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比  
**7.5%**

#### 主要取扱品目

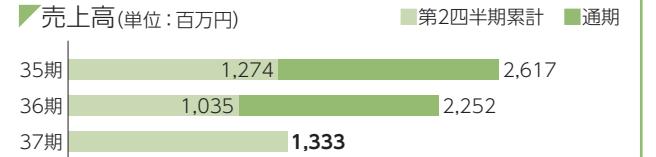
- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 貫通用カテーテル
- 心房内隔欠損閉鎖器具



バルーンカテーテル(イメージ図)

バルーンカテーテルおよびガイドワイヤーにおきましては、保険償還価格引き下げの影響等により売上高が減少いたしました。その他の品目におきましては、貫通用カテーテル「Guideliner」が堅調に推移したほか、本年2月より販売を開始した心房内隔欠損閉鎖器具「Figulla FlexII」が医療現場で高く評価され伸びました。

以上により、インターベンションの売上高は、13億3千3百万円(前年同期比28.8%増)となりました。



### その他

連結子会社で販売する  
血液浄化装置等の医療機器を扱う

売上高構成比  
**2.6%**

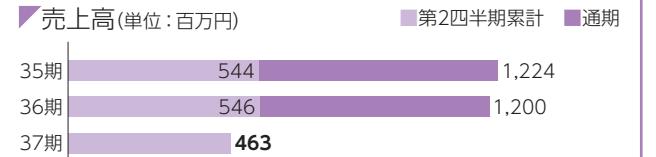
#### 主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は、4億6千3百万円(前年同期比15.1%減)となりました。

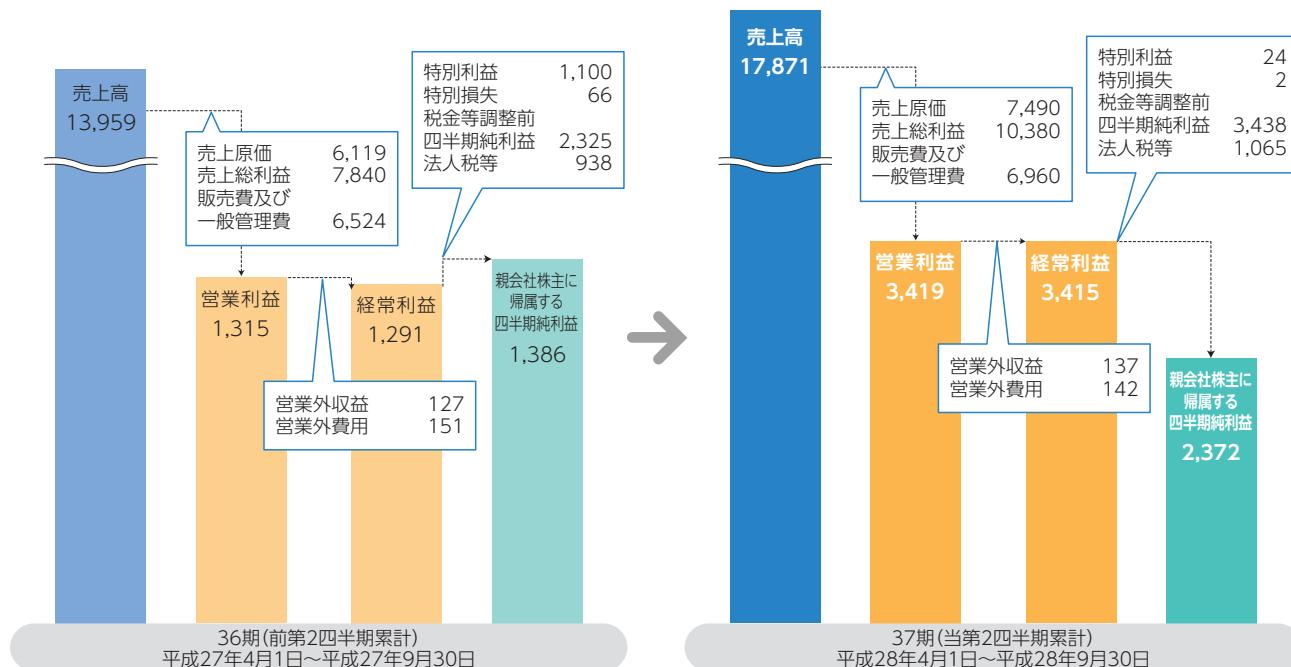


# 連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



### 営業利益

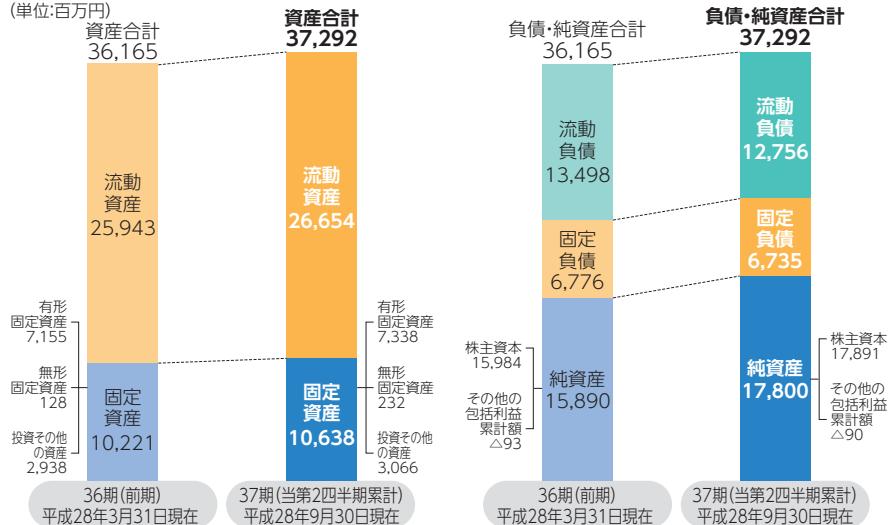
自社グループ製品において、収益性の高い製品の販売が伸長していることに加え、仕入商品においても新商品への切り替えが進み、収益性が改善したことにより、売上総利益率は前年同期に比べ1.9ポイント改善いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、自社製品の開発関連費用のほか、業容拡大に伴う物流やシステム関連の業務委託費用等が前年同期に比べ増加したものの、薬事関連費用等の一部の経費については予算執行が遅れていることから、営業利益は34億1千9百万円(前年同期比159.9%増)となりました。

### 親会社株主に帰属する四半期純利益

受取利息をはじめとする営業外収益を1億3千7百万円、支払利息及び為替差損等を営業外費用として1億4千2百万円計上、また、子会社の工場跡地の売却益を特別利益として2千4百万円計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は、23億7千2百万円(前年同期比71.1%増)となりました。

## 四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



### 流動資産

たな卸資産が6億3千9百万円減少した一方で、現金預金が5億9千万円、売上債権が3億5千8百万円増加したこと等により、流動資産は前連結会計年度末に比べ7億1千1百万円増加し、266億5千4百万円となりました。

### 流動負債

法人税等の支払及び1年内返済予定の長期借入金の約定返済等により、流動負債は前連結会計年度末に比べ7億4千1百万円減少し、127億5千6百万円となりました。

### 固定負債

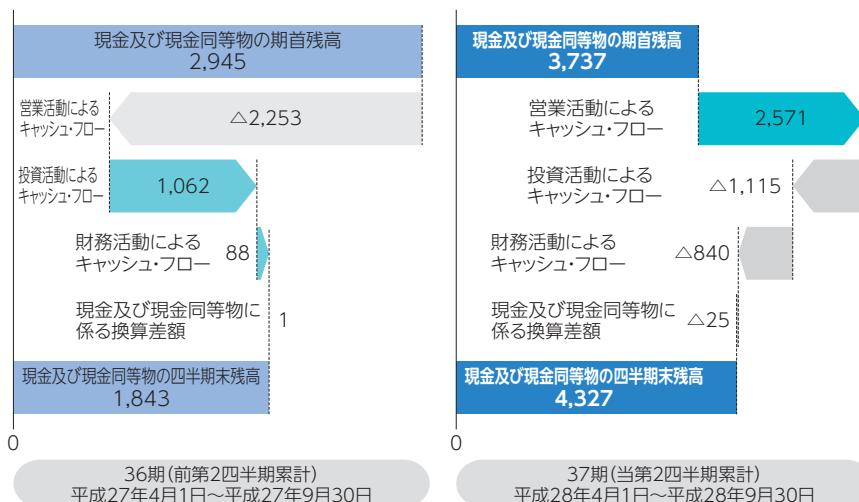
長期借入金の減少等により、固定負債は前連結会計年度末に比べ4千万円減少し、67億3千5百万円となりました。

### 営業活動による キャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が34億3千8百万円を計上したことに加え、たな卸資産の減少による収入が5億9千3百万円、仕入債務の増加による収入が5億1千2百万円となったこと等により、25億7千1百万円の収入となりました。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



# 会社概況

## Corporate Data

### ■ 会社概要 (平成28年9月30日現在)

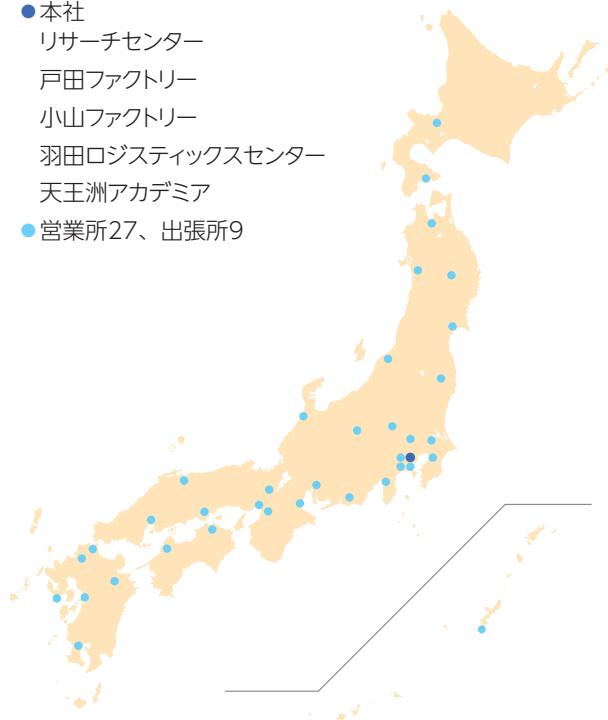
商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結819名 単体645名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司

### ■ 役員 (平成28年9月30日現在)

取締役会長 増本 武司	取締役 山田 健二
代表取締役社長 鈴木 啓介	取締役 渡辺 修
代表取締役副社長 鈴木 厚宏	社外取締役 佐々木文裕
常務取締役 高橋 省悟	常勤監査役 神谷 安恒
取締役 黒沼 孝之	社外監査役 中村 勝彦
取締役 野上 和彦	社外監査役 浅利 大造

### ■ 事業所 (平成28年10月1日現在)

- 本社  
リサーチセンター  
戸田ファクトリー  
小山ファクトリー  
羽田ロジスティックスセンター  
天王洲アカデミア
- 営業所27、出張所9



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.JLL.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

✉ 投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



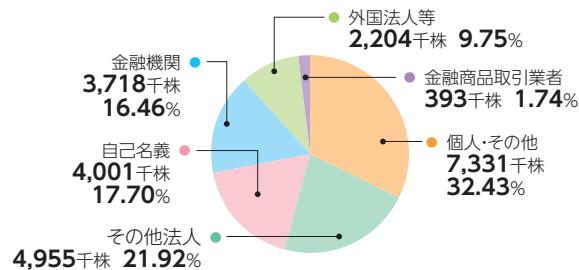
### 株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数	86,600,000株
発行済株式の総数	22,604,994株
株主数	5,150名
大株主	

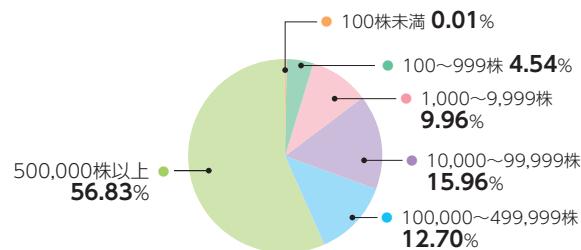
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	2,465	13.25
KS商事株式会社	2,192	11.78
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,635	8.79
片山晃	1,101	5.92
日本スタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	788	4.24
鈴木啓介	662	3.56
日本ライフライン従業員持株会	342	1.84
CBNY OBERWEIS INTERNATIONAL OPPORTUNITIES FUND	338	1.82
上田勝啓	268	1.44
CBNY-OBERWEIS INTERNATIONAL OPPORTUNITIES INSTITUTIONAL FUND	262	1.41

(注)持株比率は、自己株式(4,001,404株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布

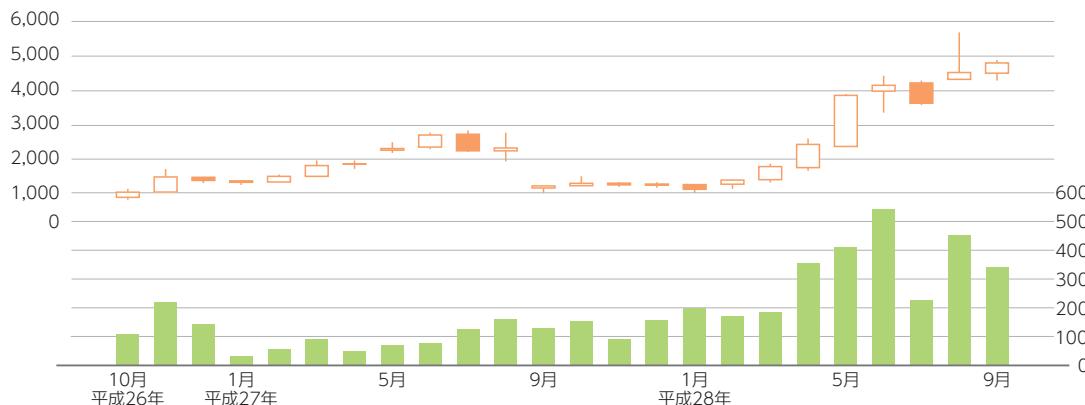


### 所有数別株式分布



### 株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



当社は平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。また平成28年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。当株価・出来高の推移(月足)は、株式分割前の推移となっております。

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.jll.co.jp">http://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
  - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様  
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

## 日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号  
電話 03-6711-5200  
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。